

「豊かな弥彦村を創る会」

(小林とよひこ後援会だより)



第21号 平成30年2月4日

討議資料

2018年戊戌（つちのえ・いぬ）「ボジツ」 戊は茂で、樹木が茂ると、風通しや日当たりが悪くなる。そこで思い切って剪定をしなければならないというのが戊の意味。戊は戊と一からなり、一はすなわち戌（ジュ・まもる）ではない。戌の戌は茂るに同じく、一は陽気を意味し、草木茂る中に陽気を蔵するもので、また裁成の意がある。いろいろにおいて新しい勢力・動きが出てそれを果敢に処理してゆかなければならない。「干支の活学」安岡正篤著

「財政について」

平成30年度一般当初予算は、厳しい編成が予想されます。

平成28年度市町村普通会計決算収支				
区分 単位千円	歳入総額 A	歳出総額 B	積立金	
			財政調整基金	財政力指数 (3か年平均)
22 弥彦村	4,415,119	4,285,437	342,700	0.421
30 粟島浦村	985,785	864,642	450,000	0.088
21 聖籠町	7,377,121	7,035,664	521,891	1.119
29 関川村	4,874,399	4,757,675	797,596	0.230
23 田上町	4,518,290	4,304,841	970,721	0.406
11 燕市	34,645,745	34,003,646	3,338,688	0.665
3 三条市	45,006,346	44,450,725	7,203,921	0.604
1 新潟市	356,388,020	354,178,640	3,611,267	0.743

財政調整基金の役割は、地方公共団体の健全な財政運営を確保するために設置した積立金で、経済事情の変動等による減収、災害により生じる予期せぬ支出を埋めるなど、いわゆる不足の事態に備える預金です。この基金の適正規模は、標準財政規模の10%とされる。

平成28年度、財政調整基金を8000万円取り崩し、競輪事業特別会計から繰入金7,000万円を補填しながらの財政運営となっている。3年連続で財政調整基金残高の減少が懸念されます。「近年の弥彦村は、本来のあるべき財政規模を超えて、支出超過の状態、このままでは財政破綻が懸念される」。

平成29年度、歳入歳出としては、財政調整基金への積立・取り崩しを控除した実質単年度収支4年ぶりの黒字となりましたが、これは地方交付税、ふるさと納税寄付金、地方消費税交付金の増額が主な要因で、財政調整基金の取り崩しを行わずに財政運営ができたためであり、村税減少等でも明らかですが依然として安心できる状況ではありません。村税減少等でも明らかで「新規・増額事業の財源は、既存事業の廃止・縮減をもって捻出する」当初予算説明書に記載から

【豊かな弥彦村を創る会】

小林とよひこ後援会事務所 住所 弥彦村弥彦 1101-1 電話・FAX 番号 0256-77-8088

「住んでみたい弥彦村、住んで良かった弥彦村」 副会長 佐藤光雄

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話様になりました。「豊かな弥彦村を創る会」も発足以来4年目を迎えることとなります。振り返ってみますと、昨年3月に「農産物直売所」がオープンし、春の桜、秋の紅葉と沢山の観光客をお迎えし新たな弥彦の拠点として賑わいました。今春には、「おもてなし広場」がグランドオープンします。これもみなさまお力添えのお陰と感謝申し上げます。また、駅前ホテル跡地も3月には中央に八角形の足湯つき休憩所が完成し、おもてなし広場と共に新しい観光の拠点となります。

さて平成は来年4月まで、その後は新しい元号に変わります。年明け早々の1月には村長選、4月には村議選が行われます。これまでの小林村政は議会等の反対もあり、すべての公約実現にはまだまだ道半ばですが、何とかここまで来ることができました。村政改革の手を緩めずに目指すは、豊かな村づくり、子育てが安心安全で、笑顔が飛び交う村作りの実現に向けて小林村長に今まで以上に頑張っていたいただきたい。後援会としても、一丸となって村長を支える覚悟であります。

本年も小林村長と共に「住んでみたい弥彦村、住んで良かった弥彦村」の実現に向けて後援会は頑張る覚悟でいます。村政改革の後退はできません。弥彦村の明るい未来を創るのはみなさま一人一人の力です。本年もよろしくお願い申し上げます。

小林豊彦村長の新年のごあいさつ No.1

豊かな弥彦村を創る会の皆さん、あけましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えになったことと存じます。旧年中に引き続き、今年もよろしくお願い申し上げます。

本当に早いもので、今年が任期最終年の4年目になりました。あっという間に3年が過ぎてしまいました。兎に角いろいろありました。ただただ忙しく動き回っていたような気がします。大臣にも直接お会いしました。前地方創生大臣には初めての新潟県入りに弥彦村を選んでいただきました。霞ヶ関の経済産業省など中央官庁にも足しげく通いました。全国の競輪場にもご挨拶に出向きました。3年間で全国の43ある競輪場のうち20競輪場を訪問しました。この突っ走った3年間の村政の中で一番印象に残っているのは、何ととっても最初の村議会でした。平成27年弥彦村議会3月定例会のことです。村長に当選したのが平成27年1月25日、役場に初出勤したのが2月23日月曜日でした。当選から初登庁まで約1ヶ月もあつたのは、前村長の任期が2月21日であったため、前村長がその日まで役場に出勤していたからです。長い残務整理の時間だったと思います。

小林豊彦村長の新年のごあいさつ No.2

初出勤後、土日を除くと約2週間後に村議会3月定例会が開催されました。3月12日からでした。その時の小林



村政を担当する主要メンバーは、実は誰もいませんでした。前村長時代の三役は通常村長退陣と同時に辞職します。当然、副村長、教育長はいません。新副村長、教育長は議会の承認を得る必要がありますから、3月議会に間に合いません。その場合は、普通なら役場内部に最も精通している総務課長が、新村長を支えます。

総務課長は三役メンバーと違い政治任用ではありません。村の行政を担い村全体のために奉仕しなければなりません。村長が交代しようとも、新たな人事が出ない限り新村長を支える義務があります。就任前に我が自宅に1回だけ訪ねてくれました。災害時に村長が出動する際着用する作業着一式を届けてくれたのです。しかし、就任時には病気のためとの理由で辞められており、その後電話での連絡も一切ありませんでした。

新聞社での仕事をやめ、弥彦に帰ってからは農業一筋。行政には全くタッチしていません。当然、役場の課長さんたちとの付き合いもなく、顔見知りには本当にゼロでした。その上、私には行政経験がないため、議場内の慣例も知りません。例えば礼をする場所などです。村長は壇上で話す場合はかならず前と後に、議長に礼をしなければなりません。そんな基礎的な知識さえありませんでした。

普通なら間違いなく、議場で立ち往生するところです。人によっては議会初日が終わった段階で、村長辞職に追い込まれると思います。

反村長派には申し訳ありませんが、私は違いました。一言で言うと楽しかったですね。初日の所信表明演説、2日の一般質問に対する答弁。委員会での質問は私の公約に関するものばかりでしたので、一人で全部答えました。その時間一般質問当日は、確か6時間だったと思います。終了時には完全に声がつぶれていました。底意地の悪さ、悪意がはっきり分かりました。何としてでも、引きずり降ろしたかったとしか思えませんでした。ただ、相手が悪かったですね。就任後、知り合いになった新潟県内、県外の町村長に話すと同様に「そんなことあるわけが無い」とびっくり、そして憤ってくれました。

さらに、議会最終日に平成27年度の当初予算案に議会が反対とのことで、予算案が否決される寸前までいきました。当然でした。村長選で私を公然と応援してくれた村会議員は一人しかいなかったからです。

小林豊彦村長の新年のごあいさつ No. 3

しかし、野党の自民党県議会議員が圧倒的多数を占める新潟県議会で、最初の米山新潟県知事の予算案は問題なく賛成多数で採決しています。それが選挙で選ばれた首長に対する議会の最低の礼儀だからです。弥彦村議会はその最低の礼儀さえ、選挙の結果（住民の多数派の意思）に対する理解さえ出来ないレベルだったということです。

ですから私は全国でも聞いたことのない、就任直後の初議会での当初予算案否決も仕方がないと判断しました。この事態こそが弥彦村の姿だったと分かったからです。村民の皆さんに知ってほしかったからです。例え、全国に村の恥をさらすことになっても、長い目で見れば弥彦村のためになる、と判断したからです。最終的にはその時の議長、私を支持してくれる村議、それに議会事務局長の調整で、私が一部妥協の言葉を発言することで話がまとまり、賛成多数で採決されました。

平成30年1月の今も、基本的には弥彦村のこうした状況は全く変わっていません。とにかく村長を倒すなら弥彦村がどうなってもかまわない、という強力な勢力が村内にあるという事実です。今年もこの状況は間違いなく続くと思います。

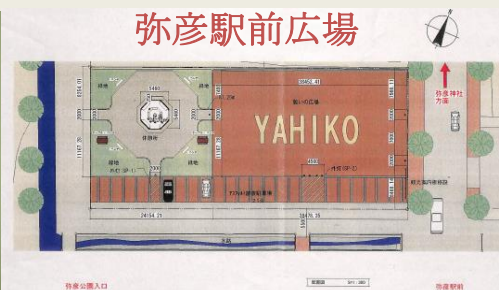
しかし、弥彦村はいま極めて財政的に厳しい状況に立たされているのです。崖っぷちにあると言っても過言ではありません。内部で対立している余裕ありません。何にもないのです。負けるわけには絶対できません。本当に弥彦村を豊かにするためこれまで以上の皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。一緒にがんばりましょう。

おもてなし広場は、3月下旬にグランドオープンする。公約の目玉で湯治場構想に代わる観光の復活をかけた重要な施策の一つである。昨年の3月の農産物直売所のオープンには、当時の地方創生担当大臣の山本幸三大臣が来村し、全国的にも注目され地方創生の目玉となった事業である。今年度は、フードコート（交流キッチン、チャレンジキッチン）、農産物加工施設、喫茶店、チャレンジショップ（土産店など）が3月末に完成し、グランドオープンする。施設完成後、おもてなし広場は弥彦村から弥彦観光協会に貸与し、弥彦観光協会がテナント契約を含む管理、運営を行う。



「豊かな弥彦村を創る会」 総会・講演会

平成29年10月22日
弥彦文化会館小ホール



講演「最近の競輪事業の状況について」

(公社) 全国競輪施行者協議会前理事長 武島裕氏

競輪事業は、経済産業省の所管です。その振興法人を JKA といいます。売上は当時 2.1%140 億円を年間 43 場の施行業者が納めている。競輪事業会計は、地方財政に寄与しなかったら、公営ギャンブルはやっている意味、全くない。公営ギャンブルは競馬の JRA、これは農水省の所管。売り上げが、2兆3千億円。次が競艇の 1兆2千億円くらい。そして競輪が 6091 億円です。共に、施行業者が収益を上げて地方財政に寄与することです。競輪は 43 場の競輪施行業者が潤って初めて、公営ギャンブルの存在意義があります。

「競輪事業の現状は」施行業者が収益を自治体ごとに利益を確保していけなかったら、公営ギャンブルなんて本当やっている意味がない。やめたほうがいい。でもやめるのだけでも約 10 億位かかります。やめるのも 10 億。だったら、頑張ろうというのが小林村長さんの思いであり、心意気です。

「競輪のレースとは」施行業者は、例えば弥彦村が 100 億円だとすると、100 億円のうち 75%の 75 億円は払い戻し率、お客さまに還元する。残りの 25%が施行業者のものです。施行業者は、この 25%の中から公金、選手会の賞金、協議会の委託料などを支払います。それから、ミッドナイト競輪は、村長が「1億5千万、毎日売れます。3日間で約3千万円の黒字が出ます。F2、昼間やったら赤字が5千万円以上です。」とっていました。ミッドナイト競輪は儲かります。

「寛仁親王牌は、5億の利益がでる」**寛仁親王牌をやったら、少なくとも5億円くらいは利益が出てくる。その収益が一般財源に入っていないのは、誰が考えてもちょっとおかしいですね。**財政調整基金、あるいは施設を改修するところにお金が回っているなら、それなりの説明がつかます。そうでなかったら、ちょっと考えられない。これから競輪事業をやっていくには、他の競輪場では既に実施している外部監査、第三者の目で検証してもらうこれが大切ではないかと思えます。施行業者は、競輪の売上があがらなかつたら今後は立ち行かなくなります。最後にもう一回言います。**公営ギャンブルは繰り出してなんぼです。**



弥彦村議会 12月定例会



「9月定例会より」 9/5 全員協議において、一般会計補正予算の経営改善(競輪事業等)調査業務委託などの理事者側意見を聞いた。経営改善(競輪事業等)調査業務委託は、全会計にわたって費用対効果を主眼とした調査を行い、競輪事業を含めて持続可能な自治体への基礎を築くための提案である。競輪事業は地方公営企業会計への移行を視野に弾力的な運営をめざす。調査期間は平成27年3月から1年間。①小林村長の会計責任かかわる調査(全会計)②内部統制調査(競輪事業特別会計)①は費用対効果を中心に②業務の有効性、効率性、法令等の遵守を調査する。委託料は450万円、一般会計補正予算に計上する。昨年12月定例会から今回で4回目、昨年6月、9月の競輪事業特別外部監査を入れると実質6回目の提案。村長は、競輪特別会計からの繰り出すことによって、将来の競輪場改修の財源確保のためにも調査が必要であると訴えた。

「12月定例会」最終日(12/18) 外部監査実質7回目の否決

経営改善(競輪事業等)調査業務委託料450万円を削除する修正動議がだされ可決する。総務文教委員会では一般会計補正予算は賛否同数となり、本多隆峰委員長決裁で否決した。

本会議では、田中議員と小熊議員から業務委託料450万円を削除する修正動議が出された。代表して田中議員が「実質6回連続で否決されている案件を前回と全く同じ内容で7回目の提案。外部監査を必要とする新たな案件も出てきていない」と提案説明を行った。

討論では板倉恵一議員と柏木文男議員が反対討論、本多啓三議員からは賛成討論がおこなわれた。採決の結果、賛成は小熊、田中、本多啓三、赤川、花井、本多隆峰の六氏、反対は柏木、板倉、安達の三氏。六対三の賛成多数で修正案を可決した。

修正動議に対する反対討論(抜粋) 柏木文男議員 修正動議に対し反対します。

そもそも弥彦村が競輪を開催する目的は何なのでしょう。弥彦村が競輪を開催する目的は、競輪を開催して、村の財政に寄与することにあります。そして、その収益を一般会計に繰り入れ、道路の建設、学校の建設、保育園の建設等の運営に寄与する目的で競輪が開催されております。開設から今まで130億円以上の収益があり、一般会計に繰り入れてきました。貴重な財源として道路整備、学校建設、福祉に使われてきたことは、皆さんもご存知のことと思います。ここ数年は競輪会計の経費削減を図り一般会計に繰り入れがなされてきました。関係のない外部から調査をすることで新しい発想ができ、経費節減につながると思います。外部からの新しい血を入れ調査を行い、調査の結果の答申をもらい更なる経費節減に努め、より一層の収益を上げるようにするには、調査が必要で450万円の削除には反対します。

修正動議に対する反対討論(抜粋) 板倉恵一議員 修正動議に対し反対します。

またまた反対ですか？今回で7回目になりますが、第1回目の1000万円の時から、当局側は修正の意見を取り入れずと補正予算の提案をしております。でも毎回反対されております。今回は、総務文教委員会で議案第65号のうち450万円の補正予算を含めてすべて反対であるとして採決の結果賛成2名反対2名の同数となったため、委員長採決で否決となりました。この議案65号には、一般会計補正予算のうち、歳入及び歳出の会議費・総務費・民生費・児童福祉費・保育園費・子育て支援事業費・給料・共済費・教育費・予備費・地方債の補正まで含んでおります。総務文教常任委員会で反対された方は、これらも承知の上で反対されたと思います。弥彦村の中から選ばれて議員になっている以上村の税金で活動されていると思いますが、皆さんがよく使う議会軽視。これこそが、議会軽視でないのでしょうか？それとも分らないで反対してしまい、最終日に別々にして修正動議を出されたのでしょうか。

本多啓三議員から「昨年六月定例会六回提案していずれも否決。村長は議会の採決の重みを否定することであり、容認できるものではない」と短く賛成討論を行った。